

職業実践専門課程の基本情報について

学校名		設置認可年月日	校長名		所在地																						
専門学校 麻生リハビリテーション 大学校		平成13年3月30日	安藤 廣美		〒812-0007 福岡県福岡市博多区東比恵3-2-1 (電話) 092-436-6606																						
設置者名		設立認可年月日	代表者名		所在地																						
学校法人麻生塾		昭和26年3月12日	麻生 健		〒820-0018 福岡県飯塚市芳雄町3-83 (電話) 0948-25-5999																						
分野	認定課程名	認定学科名		専門士	高度専門士																						
医療	医療専門課程	理学療法学科 (昼間部)		平成25年文部科学省 告示第3号	—																						
学科の目的	専門学校麻生リハビリテーション大学校 理学療法学科は、教育基本法の精神に則り、学校教育法並びに理学療法士及び作業療法士法に従い、高齢化社会、医療技術の高度化、リハビリテーションの専門化に対する人材確保の一翼を担い、医療及び保健福祉活動の充実に貢献するために理学療法士を養成する事を目的とする。																										
認定年月日	平成26年3月31日																										
修業年限	昼夜	全課程の修了に必要な 総授業時数又は総単位数	講義	演習	実習	実験	実技																				
	3年 昼間	3150時間	780時間	1410時間	960時間	0時間	0時間																				
生徒総定員		生徒実員	留学生数(生徒実員の内)	専任教員数	兼任教員数	総教員数																					
240人		228人	0人	9人	26人	35人																					
学期制度	■前 期:04月01日～08月31日 ■後 期:09月01日～03月31日			成績評価	■成績表: 有 ■成績評価の基準・方法 学科試験、実習評価及び学習状況の総合評価とし、60点以上を合格点とする																						
長期休み	■夏 季:08月13日～08月15日 ■秋 季:08月31日～09月12日 ■冬 季:01月19日～02月06日 ■春 季:03月08日～03月31日			卒業・進級 条件	(進級)規定の出席率(欠席日数が出席すべき日数の3分の1以内)且つ学科試験・実習評価が60点以上をもって合格、単位履修、ならびに各学年の教育に基づいたものとする (卒業)全単位履修並びに欠席日数が出席すべき日数の3分の1以内とする																						
学修支援等	■クラス担任制: 有 ■個別相談・指導等の対応 担任および主任による個人面談随時実施し、必要に応じて三者面談や個別支援体制を実施している。			課外活動	■課外活動の種類 実習病院でのボランティア 地域でのボランティア その他ボランティア ■サークル活動: 有 ■国家資格・検定/その他・民間検定等 (令和元年度卒業生に関する令和2年5月1日時点の情報)																						
就職等の 状況※2	■主な就職先・業界等(令和元年度卒業生) 医療機関・施設 ■就職指導内容 就職事前指導をスタートして、履歴書の添削および面接指導等を個別に随時行っている。 ■卒業生数 67 人 ■就職希望者数 65 人 ■就職者数 64 人 ■就職率 : 98.5 % ■卒業者に占める就職者の割合 : 95.5 % ■その他 (令和元年度卒業生に関する 令和2年5月1日 時点の情報)			主な学修成果 (資格・検定等) ※3	<table border="1"> <thead> <tr> <th>資格・検定名</th> <th>種別</th> <th>受験者数</th> <th>合格者数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>理学療法士</td> <td>②</td> <td>67</td> <td>65</td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table> ※種別の欄には、各資格・検定について、以下の①～③のいずれかに該当するか記載する。 ①国家資格・検定のうち、修了と同時に取得可能なもの ②国家資格・検定のうち、修了と同時に受験資格を取得するもの ③その他(民間検定等) ■自由記述欄 なし			資格・検定名	種別	受験者数	合格者数	理学療法士	②	67	65												
	資格・検定名	種別	受験者数	合格者数																							
理学療法士	②	67	65																								
中途退学 の現状	■中途退学者 10 名 ■中退率 4.5 % 令和元年5月1日時点において、在学者221名(令和元年4月1日入学者を含む) 令和2年3月31日時点において、在学者210名(平成31年3月31日卒業生を含む) 転科(出)者1名 ■中途退学の主な理由 進路の変更・学業不足 ■中退防止・中退者支援のための取組 随時担任・主任面接実施。保護者との連携における情報交換 学業支援に対してはセミナー、個別居残り学習、担任による指導を行う。																										
経済的支援 制度	■学校独自の奨学金・授業料等減免制度: 有 東日本大震災により被災し進学が困難になった者を対象に入学金、校納金、寮費を卒業まで全額免除する。 ■専門実践教育訓練給付: 給付対象 前年度の給付実績者数: 8名																										
第三者による 学校評価	■民間の評価機関等から第三者評価: 有 ・一般社団法人 リハビリテーション教育評価機構 ・全国専門学校リハビリテーション協会																										
当該学科の ホームページ URL	http://www.asoiuku.ac.jp/arc/subject/pt/																										

1.「専攻分野に関する企業、団体等(以下「企業等」という。)との連携体制を確保して、授業科目の開設その他の教育課程の編成を行っていること。」関係

(1)教育課程の編成(授業科目の開設や授業内容・方法の改善・工夫等を含む。)における企業等との連携に関する基本方針

養成教育は、その時々々の社会環境により影響を受けた医療状況の変化を速やかに反映しなければならない。医療技術の進展や患者様のニーズにより広がりを見せるリハビリテーション領域の教育に企業との連携は不可欠である。

具体的には、カリキュラム作成に際して、養成教育の開始次期における動機付けのための学習や養成教育の要である臨床実習の事前・事後指導の指導に対して臨床の現場である企業からの提言を取り入れ、より現場に即した方法で、医療サービス提供のための教育内容の検討を図れる関係の構築をすすめる。

(2)教育課程編成委員会等の位置付け

※教育課程の編成に関する意思決定の過程を明記

教育課程編成委員会は、常に変化する保健・医療・福祉分野の動向を見据えて、養成校の独りよがりな教育とならないように現状に合った教育の水準を担保すべく中核となる組織である。ここでは多角的な視野からの検討評価をもとに、今後のリハビリテーションを担う人材の育成のあり方を追求することを目的とし、教務会議の一環として年2回開催される。

またこの委員会の検討をもとに、さらに下部組織としてのカリキュラム会議において、より柔軟な実践能力向上に向けたカリキュラム改善に反映されるものとする。

特に各科目の習熟の集大成である「臨床実習」につながる授業の内容や「臨床実習」自体の内容や評価項目について検討し改善をおこなう。

(3)教育課程編成委員会等の全委員の名簿

令和2年7月31日現在

名前	所属	任期	種別
久保田 勝徳	福岡県理学療法士会 理事(福岡桜十字病院)	令和2年4月1日～令和2年3月31日(1年)	①
日高 幸彦	株式会社麻生 飯塚病院	令和2年4月1日～令和2年3月31日(1年)	③
山下 智弘	株式会社麻生 飯塚病院 リハビリテーション科 医師	令和2年4月1日～令和2年3月31日(1年)	③
井本 俊之	株式会社麻生 飯塚病院 リハビリテーション部 技師長	令和2年4月1日～令和2年3月31日(1年)	③
山崎 哲弘	株式会社麻生 飯塚病院 リハビリテーション部 副技師長	令和2年4月1日～令和2年3月31日(1年)	③
甲斐田幸輝	株式会社麻生 飯塚病院 リハビリテーション部 副技師長	令和2年4月1日～令和2年3月31日(1年)	③
西村 天利	平成18年度 理学療法学科卒業生(株式会社麻生 飯塚病院)	令和2年4月1日～令和2年3月31日(1年)	③
田中 裕二	専門学校麻生リハビリテーション大学校 校長代行 補佐	令和2年4月1日～令和2年3月31日(1年)	
山下 慶三	専門学校麻生リハビリテーション大学校 理学療法学科 主任	令和2年4月1日～令和2年3月31日(1年)	

※委員の種別の欄には、委員の種別のうち以下の①～③のいずれに該当するか記載すること。

①業界全体の動向や地域の産業振興に関する知見を有する業界団体、職能団体、地方公共団体等の役職員(1企業や関係施設の役職員は該当しません。)

②学会や学術機関等の有識者

③実務に関する知識、技術、技能について知見を有する企業や関係施設の役職員

(4)教育課程編成委員会等の年間開催数及び開催時期

(年間の開催数及び開催時期)

年間2回 9月と3月に実施

(開催日時(実績))

令和元年度 第1回 令和元年 6月28日 18:00～20:00

令和元年度 第2回 令和02年 2月10日 18:00～20:00

(5)教育課程の編成への教育課程編成委員会等の意見の活用状況

昨年度より開始された新実習方式診療参加型臨床実習についての説明と意見が交換された。特に昨年度検討のあったチェックリストや実習課題について変更点について説明が行われた。その中で学生の経験値が上がっている半面、考察力や考えをまとめることについては不足していることが指摘された。

会議の意見を受け実習前後での学内セミナーでの認知面の強化を行っていくことを決定した。

2. 「企業等と連携して、実習、実技、実験又は演習(以下「実習・演習等」という。)の授業を行っていること。」関係

(1) 実習・演習等における企業等との連携に関する基本方針

企業との連携による実習は実習指導者の下でリハビリテーションおよび理学療法の実際を学ぶとともに、職業人・社会人としての態度を学ぶことであり、さらには、臨床実習指導者の指導の下、理学療法士としての心構えと基礎知識、基礎技術を臨床の場で体験し学習することである。

本校の臨床実習では、実習指導者の指導の下、診療参加させていただき多くの症例経験を通して、情報収集・評価・理学療法計画立案・理学療法実施および記録報告等の一連の理学療法を実践する。

(2) 実習・演習等における企業等との連携内容

※授業内容や方法、実習・演習等の実施、及び生徒の学修成果の評価における連携内容を明記

理学療法学科では教育課程編成委員会において、協力病院から臨床実習方針についての意見を伺い、今年度の内容について十分議論し、実習方針を決定している。

各実習指導者と担当教員による実習生への包括的な指導を行なうため、実習開始前に実習先医療機関の実習担当者との協議を行い、学校の方針や実習施設での特徴を踏まえた実習指導についての情報交換を行っている。さらに実習前には連携している実習施設より指導者を招聘し実習の在り方や内容について講演をいただき、またOSCEでは臨床実習施設の作業療法の先生方から実技指導を受けている。

実習期間中は担当教員が随時電話連絡を行い、期間の中間時に実習施設の訪問し、その後相互で実習進捗を確認し、その指導状況を実習生にフィードバックしていく。実習後は実習担当者会議を行い、結果報告と反省会を行い、表出した課題を次年度への計画に活かしている。

(3) 具体的な連携の例※科目数については代表的な5科目について記載。

科目名	科目概要	連携企業等
臨床実習Ⅰ	臨床の場で、患者の評価、理学療法プログラムの作成を学び、学校で修得した理論と技術を応用し、問題解決を図る基本を学ぶことをはじめとして、病院等の組織をはじめリハビリテーション科(部)、理学療法士部門の運営、管理について学び、リハビリテーションチームの一員として行動すると同時に専門職としての理学療法士の資質を養う。	株式会社麻生 飯塚病院などの病院施設
臨床実習Ⅱ	臨床の場で、患者の評価、理学療法プログラムの作成からプログラム実施まで学び、学校で修得した理論と技術を応用し、患者のリスク管理と問題解決を図ることを学ぶ。また病院等の組織をはじめリハビリテーション科(部)、理学療法部門の運営、管理について学び、リハビリテーションチームの一員として行動すると同時に専門職としての理学療法士の資質を養う。	株式会社麻生 飯塚病院などの病院施設

3. 「企業等と連携して、教員に対し、専攻分野における実務に関する研修を組織的に行っていること。」関係

(1) 推薦学科の教員に対する研修・研究(以下「研修等」という。)の基本方針

研修については、教職員に対して、現在の職務又は今後就くことが予想される職務の遂行に必要な知識又は技能等を修得させ、その遂行に必要な教職員の能力及び資質等の向上を図ることを目的として研修を受講させる。「教職員研修規程」に則り、専攻分野における実務に関する研修や、指導力の修得・向上のための研修を教職員の業務経験や能力、担当する授業科目や授業以外の担当業務に応じて実施し、より高度な職務を遂行するために必要な知識を修得させる。

年度の初めに研修計画を作成し、各教職員のスキルに適した研修が計画的に受講できるようにする。また必要に応じ、年初の計画以外の研修受講も可能としている。併せて理学療法士協会等にて専門分野の研修も同様に、教職員の業務経験や能力、担当する授業科目や授業以外の担当業務に応じて、定期的を受講させる。この研修はその内容を他教員へ報告することで、全教員のより高度な職務を遂行するために必要な知識を付与することを目的とする。

(2) 研修等の実績

① 専攻分野における実務に関する研修等

研修名:「第56回日本リハビリテーション医学会学術集会」(連携企業等:日本リハビリテーション医学会)

期間:令和元年6月12日～6月16日

対象:教員1名

内容:リハビリテーションの動向及び最先端の分野など多岐にわたるリハビリテーションの役割など最近の知見に対する発表や講演が実施された。

研修名:「第17回日本神経理学療法学会学術大会」(連携企業等:日本理学療法士協会)
期間:令和元年9月28日～9月29日
対象:教員1名
内容:神経障害理学療法分野の全国学会。最新の知見に対する発表や研修会である。

研修名:「第6回日本小児理学療法学会学術大会」(連携企業等:日本理学療法士協会)
期間:令和元年11月16日～11月17日
対象:教員1名
内容:小児発達理学療法分野の全国学会。最新の知見に対する発表や研修会である。

研修名:「第24回ペインリハビリテーション学会学術大会」(連携企業等:日本ペインリハビリテーション学会)
期間:令和元年9月21日～9月22日
対象:教員1名
内容:痛みに対するリハビリテーションの全国学会。最新の知見に対する発表や研修会である。

研修名:第26回SAQシンポジウム(連携企業等:日本SAQ協会)
期間:令和2年1月25日～1月26日
対象:教員1名
内容:スポーツ分野における障害予防やパフォーマンス向上の最新の知識を学研修会である。

研修名:「第10回日本腎臓リハビリテーション学会」(連携企業等:日本腎臓リハビリテーション学会)
期間:令和2年2月22日～2月23日
対象:教員1名
内容:腎臓リハビリテーション分野の全国学会。最新の知見に対する発表や研修会である。

②指導力の修得・向上のための研修等

研修名:「第8回臨床実習指導者研修会」(連携企業等:日本理学療法士協会)
期間:令和元年5月5日～5月6日
対象:教員1名
内容:臨床実習指導者講習会の講師養成のための研修会。

研修名:「第9回臨床実習指導者研修会」(連携企業等:日本理学療法士協会)
期間:令和元年5月18日～5月19日
対象:教員1名
内容:臨床実習指導者講習会の講師養成のための研修会。

研修名:「学生が主体的に学ぶ授業を作る～アクティブラーニングの実現を目指して～」
(連携企業等:全国リハビリテーション学校協会 九州沖縄ブロック会理学療法部会)
期間:令和元年7月13日
対象:教員1名
内容:国家試験対策におけるアクティブラーニング学習法の習得

研修名:「国家試験対策指導教員セミナー」(連携企業等:国試塾リハビリアカデミー)
期間:令和元年8月3日～8月4日
対象:教員1名
内容:国家試験対策におけるアクティブラーニング学習法の習得

研修名:「ICT活用」研修担当教員育成研修(連携企業等:一般社団法人 全国専門学校教育研究会)
期間:令和元年11月7日～11月8日
対象:教員1名
内容:ICT活用し、指導案、動画教材の改善を含めた担当教員養成のための研修会

研修名:「日本理学療法士教員協議会」(連携企業等:全国大学理学療法教育学会・日本理学療法士協会)
期間:令和元年11月10日
対象:教員1名
内容:全国の養成校教員による研修会であり、今年度は「シームレスな卒然卒後教育の構築ー診療参加型臨床実習の充実ー」のテーマで実施された

研修名:「授業満足度90%超えを実現する方法」研修(連携企業等:一般社団法人 全国専門学校教育研究会)
期間:令和2年2月17日～2月18日
対象:教員1名
内容:授業の導入部分で学生の心を掴み、その後の授業展開にどうつなげていくか、実践的、具体的に学ぶ研修会である。

(3) 研修等の計画

① 専攻分野における実務に関する研修等

研修名:「臨床研修」(連携企業等:各医療機関)

目的:臨床から離れ、養成教育に携わる際の臨床との乖離を防ぎ、常に最新の知識と技術を持って養成教育に当たることを目的とする。

日程:令和2年4月1日～令和3年度3月31日

内容:各医療機関等において毎週1回、医療機関等の臨床現場のセラピストとともに臨床研修を行う。

対象:全教員

研修名:「第13回 日本運動器疼痛学会」(連携企業等:一般社団法人 日本運動器疼痛学会)

期間:令和2年11月28日～11月29日

対象:教員1名

内容:運動器における疼痛の要因、機序を含めた最新の知見の発表や研修会である

② 指導力の修得・向上のための研修等

研修名:「(株)進研アド 教学Webセミナー2020」(連携企業等:(株)進研アド)

日程:令和2年7月30日

対象:教員1名

目的:教員の教育力向上

内容:withコロナ時代に求められる教育・指導体制とは

研修名:「専修学校教員 新任教員研修会」(連携企業等:福岡県専修学校各種学校協会)

日程:令和2年8月19日～8月21日

対象:教員2名

目的:教員の教育力向上

内容:専修学校教員の指導力向上のため基礎知識を確実に身につけてもらことを目的として参加。

研修名:「コーチング基礎」(連携企業等:組織デザイン・ラボ)

日程:令和2年8月19日

対象:教員1名

目的:初めてコーチングを学ぶ。

内容:コーチングのスタンス、効果、カウンセリングとの違いを知り、基本の対応の流れを体験する。

研修名:「コーチング実践」(連携企業等:組織デザイン・ラボ)

日程:令和2年9月2日または令和3年2月3日または2月17日

対象:教員1名

目的:コーチングの構造を理解し、効果的な学生支援を知る。

内容:学校における学生との対応事例を使って効果的な質問を作り実践する。

研修名:「相手も自分も活かす、個別対応強化研修」(連携企業等:組織デザイン・ラボ)

日程:令和2年9月9日または令和3年2月10日

対象:教員1名

目的:効果的な学生支援を知る。

内容:人との関わり方や考え方による4つのタイプを知り、タイプ毎の対応方法を知る。

4. 「学校教育法施行規則第189条において準用する同規則第67条に定める評価を行い、その結果を公表していること。また、評価を行うに当たっては、当該専修学校の関係者として企業等の役員又は職員を参画させていること。」関係

(1) 学校関係者評価の基本方針

本校の基本方針に基づき、学校運営が適正におこなわれているかを企業関係者、保護者、地域住民、高校関係者等の参画を得て、包括的・客観的に判定することで、学校運営の課題・改善点・方策を見出し、学校として組織的・継続的な改善を図る。また、情報を公表することにより、開かれた学校づくりをおこなう。

(2) 「専修学校における学校評価ガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの評価項目	学校が設定する評価項目
(1) 教育理念・目標	法人の理念、学校の教育理念、学科の教育目的・育成人材像、他
(2) 学校運営	運営方針、事業計画、人事・給与規程、業務効率化、他
(3) 教育活動	業界の人材ニーズに沿った教育、実践的な職業教育、教職員の資質向上、他
(4) 学修成果	教育目的達成に向けた目標設定、事後の評価・検証、就職率、退学率、他
(5) 学生支援	修学支援、生活支援、進路支援、卒業生への支援、他
(6) 教育環境	教育設備・教具の管理・整備、安全対策、就職指導室・図書室の整備、他
(7) 学生の受入れ募集	APの明示、進路ニーズ把握、パンフレット・募集要項の内容、公正・適切な入試
(8) 財務	財政的基盤の確立、適切な予算編成・執行、会計監査、財務情報公開
(9) 法令等の遵守	専修学校設置基準の遵守、学内諸規程の整備・運用、自己点検・評価、他
(10) 社会貢献・地域貢献	社会貢献、地域貢献、学生のボランティア活動の推奨、他
(11) 国際交流	留学生の受入れ、支援体制

※(10)及び(11)については任意記載。

(3) 学校関係者評価結果の活用状況

リメディアル教育や普段の学習においてICT教育の取り組みや企業との連携による教育の可視化について説明を行った。その中でも継続的に教育活動へ活用し、個別指導に役立っているという取り組みについて評価を頂いた。実際のデータについて質問がなされ、このような取り組みは広報活動にも積極的に活用するように助言頂いた。委員の意見を受け、広報活動では教育活動の取り組みについて、別紙を作成し積極的にアピールするように取り組んだ。

(4) 学校関係者評価委員会の全委員の名簿

令和2年7月31日現在

名前	所属	任期	種別
西村 天利	平成18年度 理学療法学科卒業生	平成31年4月1日～ 令和3年3月31日(任期2年)	卒業生
小波 昌之	地域住民	平成31年4月1日～ 令和3年3月31日(任期2年)	地域住民
久保田 勝徳	福岡県理学療法士会 理事(福岡桜十字病院)	平成31年4月1日～ 令和3年3月31日(任期2年)	企業等
黒木 勝仁	福岡県作業療法協会 理事(原三信病院)	平成31年4月1日～ 令和3年3月31日(任期2年)	企業等
栳 史人	福岡県言語聴覚士会 理事(生活介護 風の丘)	平成31年4月1日～ 令和3年3月31日(任期2年)	企業等
日高 幸彦	言語聴覚学科保護者	平成31年4月1日～ 令和3年3月31日(任期2年)	PTA
井本 俊之	株式会社麻生 飯塚病院 リハビリテーション部 技師長	平成31年4月1日～ 令和3年3月31日(任期2年)	企業等
尾崎 祥一	福岡県立稲築志耕館高校 校長	平成31年4月1日～ 令和3年3月31日(任期2年)	高等学校

※委員の種別の欄には、学校関係者評価委員として選出された理由となる属性を記載すること。
(例)企業等委員、PTA、卒業生等

(5) 学校関係者評価結果の公表方法・公表時期

(ホームページ・広報雑誌等の刊行物・その他())

<https://asojuku.ac.jp/about/disclosure/doc/arc/2019/hyoka.pdf>

公表時期: 令和元年7月22日

5.「企業等との連携及び協力の推進に資するため、企業等に対し、当該専修学校の教育活動その他の学校運営の状況に関する情報を提供していること。」関係

(1)企業等の学校関係者に対する情報提供の基本方針

本校の教育方針・カリキュラム・就職指導状況など学校運営に関して、企業等や高校関係者・保護者などに広く情報を提供することで、学校運営の透明性を図るとともに、本校に対する理解を深めていただくことを目的とする。

(2)「専門学校における情報提供等への取組に関するガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの項目	学校が設定する項目
(1)学校の概要、目標及び計画	歴史、教育理念、教育目標、ASOの考え方、10つの特徴
(2)各学科等の教育	入学者受入れ方針、教育課程編成・実施方針、カリキュラム、国家資格取得実績、就職実績
(3)教職員	教員一覧及び実務家教員科目
(4)キャリア教育・実践的職業教育	就職サポート、GCB教育、企業連携
(5)様々な教育活動・教育環境	学校生活、学園祭、部活動・サークル活動、学外ボランティア
(6)学生の生活支援	生活環境サポート
(7)学生納付金・修学支援	学費とサポート、学習支援(各種支援制度)
(8)学校の財務	事業報告書、貸借対照表、収支計算書、財産目録、監査報告書
(9)学校評価	自己点検・評価、学校関係者評価
(10)国際連携の状況	グローバル教育
(11)その他	

※(10)及び(11)については任意記載。

(3)情報提供方法

(ホームページ) ・ 広報雑誌等の刊行物 ・ その他())

<http://www.asojuku.ac.jp/arc/>

授業科目等の概要

(医療専門課程理学療法学科 (昼間部))																		
分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業時数	単位数	授業方法			場所		教員		企業等との連携			
必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任				
○			生命倫理	脳死・臓器移植や安楽死・尊厳死、人工妊娠中絶や生殖補助医療など、医療における倫理上の問題を引き起こす様々な事例において、どのような議論が行われているかを検討し、自己決定、自由、幸福、人権といった倫理学上の基本的な概念やそれに基づく様々な考え方を理解する。	1後	30	2	○			○			○				
○			情報処理	Word・Excel・PowerPointのアプリケーションソフトの基礎的な操作を習得し、文書作成、表計算・グラフ作成・データ分析、スライド作成を効率的に行うことができる。レポート、サマリー、発表会資料の作成時に活用することができる。	1前	30	2	△	○		○				○			
○			生体力学	①人の運動を力学的に捉え、生体への力の作用を分析出来る視点を持つ。 ②動作や介助について必要な力学を理解する。 ③基本的動作介助の意義、目的について理解し、介助を行うことが出来る。 ④車椅子の操作と介助が出来るようになる。	1前	30	2	△	○		○			○				
○			統計学	記述統計の概要を中心に、統計学の基礎理論について講述する。また、適宜演習を行うことで、実際にデータを処理し、データの性質を説明する能力を身に着ける。	1後	30	2	○			○					○		
○			医学英語	英語の医学論文に慣れ、読解力を身につける。体各組織の機能や疾患について理解し、医学的な英単語を覚えることを目標とする。	1前	30	2	○			○					○		
○			接遇講座	医療従事者としての接遇の心構えを学ぶ。	1前	30	2	△	○		○					○		
○			コミュニケーション学	コミュニケーション理論を学ぶことで、幅広い意味を持つ“コミュニケーション”を具体的に理解し自ら考え、物事を進めていくことができる。さらに他者との関わりの中に発生する事柄に対して、多様な視点と他者の立場を想像しながら、深く思考する力を身につける。	1後	30	2	△	○		○					○		
○			解剖学	基本的な解剖学用語を学ぶ。人体を構成する器官系の大要、特に理学療法士として理解が必要とされる構造を学習する。人体各部の構造を機能と関連付けて理解する。	1前	60	4	○			○						○	

分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業 時 数	単 位 数	授業方法			場所		教員		企業等との連携	
必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任		
○			機能解剖学演習	①人体の基本構造について対象部位を直接体表から触診を通して、実践的に理解を深める。 ②触診を通して、対象部位(者)への適切なハンドリングスキルを身につける。	1前	30	1	△	○		○		○			
○			解剖学演習	感覚系・神経系の構造を機能と関連付けて学習する。 前期の「解剖学」の講義で学んだ人体の構造を、顕微鏡標本・骨格模型などの観察によって、より確実な知識とする。	1前	60	2	△	○	△	○				○	
○			生理学	恒常性維持の仕組みを理解するために、まず生命の基本単位である細胞の機能について、次いで、動物機能と植物機能とに大別して体系的にその機能や意義を習得する。	1前	60	4	○			○				○	
○			生理学演習	観察力・考察力・文章力を身につけることを目的とする。そのため、各テーマにつき実習を行い、レポート作成の方法を習得する。また、演習では国試に向けた生理学の学力養成を目ざす。	1後	60	2	△	○		○				○	
○			運動生理学演習	身体運動の生理学側面、特に運動器および呼吸器循環機能に重点を置きながら学習することにより、理学療法に必要な運動生理学の基礎的知識を理解する。	2前	30	1	△	○		○			○		
○			運動学	①人体の構造（特に運動器；骨、筋、靭帯、神経など）を述べる事が出来る。 ②各関節の構造を述べる事が出来る。 ③各関節の正常な運動について述べる事が出来る。 ④各関節の運動を導く筋走行を述べる事が出来る。	1前	60	4	○			○			○		
○			運動学演習	①運動学で学んだことを再度復習し、運動器の構造および機能について理解を深める。 ②力学の基礎を理解し、身体運動に照らし合わせて考えることができる。 ③各関節の構造を理解し、関節可動域の制限因子について理解する。 ④代表的な疾患の特徴を運動学的に説明できるようにする。	1後	60	2	△	○		○			○		
○			人間発達学	人は生涯をかけて発達する。生命の誕生から小児期・青年期・成人期を経て死にいたるまでの量的・質的变化を人間発達の視点から概観し、理解を深める。	1前	30	2	○			○				○	

分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業時数	単位数	授業方法			場所		教員		企業等との連携		
必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任			
○			病理学	基礎医学である解剖学、生理学などにより体の仕組みと働きの基礎を習得した上に位置する病理学は、病気の原因や病態を知るため、様々な疾患を遺伝学的、構造学的、細胞学的、免疫学的、主要学的に理解できるようになることを最終目標とする。一般的に知られる病気の名前とその病態を理解し、説明できるようになることを目的とする。	1後	30	2	○			○			○			
○			一般臨床医学	医学の成り立ちや基本姿勢、医学対象となる健康・病気の原因や基本的な診断・治療について学ぶ。また代表的な疾患についての理解を深める。	1前	30	2	○			○				○		
○			臨床検査薬理学	①薬についての基礎知識や生体内での代謝について知る。 ②代表的な薬物について、その作用機序を理解し、各疾患に対する理解を深める。 ③心電図波形の成り立ちと不整脈や心電図異常を来たす代表的な疾患について理解する。	1後	30	2	○			○					○	
○			整形外科学Ⅰ	整形外科学領域の疾患・治療法を理解する。	1後	30	2	○			○					○	
○			整形外科学Ⅱ	整形外科領域の疾患・治療法を理解する。	2前	30	2	○			○					○	
○			内科学Ⅰ	理学療法実施において不可欠な、内科学の知識の習得。	1後	30	2	○			○					○	
○			内科学Ⅱ	理学療法実施において不可欠な、患者の医学情報や病気の成り立ちを理解する。	2前	30	2	○			○					○	
○			神経内科学Ⅰ	神経内科の基礎知識の習得。	1後	30	2	○			○					○	
○			神経内科学Ⅱ	疾患各論の理解。	2前	30	2	○			○					○	
○			小児科学	小児の体、発達について理解し、小児リハビリテーションに関わる医学的知識を身につける。	2前	30	2	○			○					○	
○			臨床心理学	こころの問題を抱えた人やその家族についての理解と援助の方法を研究・実践する臨床心理学について、基礎的な知識・技法を学習し理解する。	1前	30	2	○			○					○	
○			精神医学	精神医学一般の知識、個々の疾患の精神病理、臨床像、治療について、医療従事者として最低知っておかねばならない事柄について学ぶ。	1後	30	2	○			○					○	

分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業時数	単位数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
○			老年医学	老年学に関する基本的な医学知識(病態、診断、治療、リハビリ)の習得を目指す。	2前	30	2	○			○			○	
○			リハビリテーション概論	①医学・リハビリテーション医療に関心を持つことができる。 ②リハビリテーションマインド・モデルを理解できる。 ③リハビリテーションの目標を理解できる。 ④リハビリテーションの過程を理解できる。 ⑤リハビリテーションチームの重要性を理解できる。 ⑥リハビリテーションにおける各職種について理解できる。 ⑦障害別におけるリハビリテーションについて理解できる。 ⑧疾患別リハビリテーションについて理解できる。	1前	30	2	○			○	△		○	
○			保健医療福祉制度論	人間社会を取り巻く社会環境の諸要因を理解し、リハビリ専門職に必要な保健・医療・福祉領域の知識を習得する。	1後	30	2	○			○				○
○			理学療法概論	①理学療法士についてその歴史や関係法規・諸制度を概観しながら理解を深める。 ②理学療法士の職域を知り、各々の領域における思考過程や規範・哲学を概観しながら理解を深める。 ③リハビリテーション活動に参画する一専門職としての理学療法士の位置づけ、役割、対象疾患、関連職種などを理解する。	1前	30	2	○			○				○
○			臨床運動学	①正常な運動・姿勢・動作を理解する。 ②運動学で学んだ基礎知識をもとに臨床における動作分析の意義と重要性について理解を深める。 ③何らかの疾患によって生ずる運動機能異常、正常運動からの逸脱を種々の方法により分析する。 ④分析結果より問題点を理解する。 ⑤理解するにあたって自分の体で体験してみる。	1後	60	2	△	○		○				○
○			動作分析学	①正常な運動・姿勢・動作を機器を用いて理解する。 ②運動学・臨床運動学で学んだ基礎知識をもとに動作分析の意義と重要性について理解を深める。 ③何らかの疾患によって生ずる運動機能異常、正常運動からの逸脱を種々の機器を用い分析する。 ④分析結果より問題点を理解する。 ⑤分析することの楽しさを学ぶ。	2前	30	1	△	○		○				○

分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業時数	単位数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
○			理学療法セミナー	①解剖学の理解とその構造について説明できる ②専門用語の理解	3前	30	1	○			○				
○			評価学Ⅰ	理学療法評価の項目と内容（意味）と必要性について述べ、各検査・測定項目について実施することができる。また、測定結果よりその障害像について考察することができる。	1前	30	2	△	○		○		○		
○			評価学Ⅱ	①関節可動域の臨床的意義を知り、実際に施行できる。 ②筋力測定の意義を知り実際に施行できる。	1後	60	2	△	○		○		○		
○			評価学演習	①運動機能検査の神経学的な理論を、大まかに説明できる。 ②運動機能検査の臨床的意義を知り、実際に施行できる。 ③疾患別の評価の特徴を理解し、まとめることができる。 ④理学療法評価の統合と解釈を大まかにとらえることができる。	2前	60	2	△	○		○		○		
○			運動療法学	①運動療法の概念・治療構造・根拠を知る。 ②関節の解剖生理学について理解する。 ③関節可動域制限とその治療法について理解する。 ④筋機能障害とその治療法について理解する。 ⑤上記知識を臨床応用できる。	2前	60	2	△	○		○		○		
○			物理療法学	①物理療法の種類、定義、目的の説明ができる。 ②各物理療法の治療効果、適応、禁忌の説明ができ、適切に実施できる。 ③各物理療法機器の取り扱い、リスク管理ができる。	2前	60	2	△	○		○		○		
○			日常生活活動学総論	①「ADLの概念と範囲」を理解する。 ②「ADLの評価」の意義・目的・実施方法を理解する。 ③「リハビリテーション支援機器」について理解する。	1後	30	2	△	○		○		○		
○			日常生活活動学Ⅰ	①ADLの中の基本動作の位置づけと理学療法と基本動作の関係を理解する。 ②基本動作（寝返り、起き上がり、立ち上がり、座位、立位）の姿勢分析、動作分析ができる。 ③代表疾患の基本動作における代償の特徴と機能障害を結びつけ分析できる。 ④基本動作の指導ができる。	2前	30	1	△	○		○		○		

分類			授業科目名	授業科目概要	配当 年次・学期	授 業 時 数	単 位 数	授業方法		場所		教員		企業等との連携
必 修	選 択 必 修	自 由 選 択						講 義	演 習	実 験・ 実 習・ 実 技	校 内	校 外	専 任	
○			日常生活活動学II	①日常生活におけるセルフケアの役割について理解する。 ②日常生活を支援する機器について理解する。 ③疾患別日常生活の障害について理解する。 ④日常性活動訓練について理解する。	2後	30	1	△	○	○	△	○		
○			義肢装具学	①リハビリテーションにおける義肢装具の重要性と役割について理解する。 ②義肢装具の種類・目的・構造について理解する。 ③装具の疾患に対する適応・活用方法を理解する。 ④装具作製の経験により作製の過程と構造の理解を深める。	2前	60	4	△	○	○		○		
○			神経障害 I	①パーキンソン病とパーキンソンニズムの違いについて説明できる。 ②パーキンソン病を捉えるための適切な情報収集が出来、問題点と目標の考え方が理解できる。 ③パーキンソン病に対する運動療法の項目を挙げ、理論的根拠を理解した上で施行することが出来る。 ④運動失調の分類と代表的疾患を挙げることができる。 ⑤運動失調を捉えるための適切な情報を収集できる。 ⑥運動失調に対する運動量の項目あげ、理論的根拠を理解した上で実際に施行することが出来る。 ⑦その他の神経疾患について、代表的疾患を挙げ、理学療法の方法を説明できる。	2後	60	2	△	○	○		○		
○			神経障害 II	①脳血管障害の概念を理解する。 ②脳血管障害の評価を復習する。 ③脳血管障害の急性期理学療法を知る。 ④脳血管障害の回復期理学療法を知る。 ⑤脳血管障害のADLの方法論を知る。 ⑥脳血管障害のMRI画像診断を学ぶ。 ⑦高齢者の特徴を知る。 ⑧高齢者における理学療法を知る。	2後	60	2	△	○	○		○		
○			骨関節障害 I	①骨関節系の基礎について知る。 ②各疾患の病態について知る。 ③各疾患の理学療法について知る。 ④各疾患に対する評価から理学療法プログラムまで理解する。 ⑤各疾患に対する理学療法を実施できる。	2後	60	2	△	○	○		○		

分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業 時数	単 位 数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
○			骨関節障害Ⅱ	①脊髄損傷の概要を知る。 ②脊髄損傷の障害像を知る。 ③脊髄損傷の評価・理学療法の流れを知る。 ④脊髄損傷の理学療法の実験を体験する。 ⑤慢性関節リウマチの病態・臨床症状を知る。 ⑥慢性関節リウマチの治療内容を知り、理学療法的位置付けを知る。 ⑦慢性関節リウマチの評価・理学療法の流れを知る。 ⑧慢性関節リウマチの理学療法の実験を体験する。	2後	60	2	△	○		○		○		
○			内部障害Ⅰ	①呼吸の解剖と換気・ガス交換について説明ができる。 ②代表的な呼吸器疾患の発生機序と病態が説明できる。 ③呼吸機能の評価、治療の実験を理解学ぶ。 ④吸引について理解する。 ⑤代謝疾患の運動処方の実験を学ぶ。 ⑥リスク管理ができる。	2前	60	2	△	○		○		○		
○			内部障害Ⅱ	①運動に必要なエネルギー代謝と循環応答を理解する。 ②循環器系の解剖と生理を理解する。 ③心電図を読むことができる。 ④虚血性心疾患の病態を学習する。 ⑤心臓弁膜症と大動脈の疾患について学習する。 ⑥運動処方と運動療法の考え方を理解する。	2後	60	2	△	○		○		○		
○			小児発達障害	①小児理学療法の考え方・対象疾患について理解する ②正常運動発達について運動学的に、人間発達学的に理解できる ③脳性麻痺の病態生理・発達の特徴を理解できる ④脳性麻痺児についてタイプ別発達の特徴をふまえ、動作分析が出来る ⑤脳性麻痺児の理学療法評価・問題点・アプローチについて理解する	2後	60	2	△	○		○		○		
○			生活環境学	在宅における住宅改修・福祉用具の導入の必要性とその効果を理解し、理学療法の視点から住宅改修を通して提案ができる。	2前	30	2	△	○		○			○	
○			地域理学療法学	①地域リハビリテーションの概要とICFの関係について説明できる。 ②地域理学療法に関係する介護保険制度及びそのサービスの目的・効果について説明できる。 ③事例を作成し、地域理学療法に必要な支援計画が作成できる。	2後	60	2	△	○		○		○		

分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業 時 数	単 位 数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
○			理学療法基礎演習	理学療法臨床基礎演習は、早期臨床体験演習の位置づけであり、見学と体験（クリニカルクラークシップ）を通し、医療人としての態度・振る舞いを身につけ、理学療法プロセスを経験することを最大の目的とする。	1後	40	1			○	○	△	○		
○			評価実習	理学療法教育の総括的かつ臨床実習に行く前の準備として重要な一環と位置付け。医療人、また理学療法士としての資質を養うことはもちろん多様な患者を体験し、評価・目標設定・理学療法プログラム作成ができることを目的とする。	2後	120	2			○	○	△	○		
○			臨床実習Ⅰ	評価実習を踏まえ、これまでに学習してきた知識・技術を臨床場面に適用し、適切な実習指導を受け理学療法プログラム立案・治療を目標とする。	3前	400	8			○	○	△	○	○	
○			臨床実習Ⅱ	理学療法治療の実施、経過の記録、再評価および最終評価など一貫した理学療法を習得することを目標とする。	3後	400	8			○	○	△	○	○	
合計					57科目	3150単位時間（127単位）									

3150

卒業要件及び履修方法	授業期間等	
各授業科目の総授業回数の3分の2以上出席し、前条第1項の規定においてC評価以上取得した者に対して履修を認定する。卒業は、最終学年次に履修すべき科目（実習を含む）を全て履修している者で学校長が認めた者とする。	1学年の学期区分	Ⅱ期
	1学期の授業期間	15週